

桜 島

概 況

噴火は3回、うち爆発的噴火(以下、爆発と略す)は2回で、噴火活動は比較的静穏でした。火山性地震は総じて少ないなかで、A型地震はやや多い状態が続きました。今後、噴火活動が活発化する可能性もあります。

火山活動度レベルは11月7日現在、レベル2(比較的静穏な噴火活動)です。

噴火活動の状況

噴火は4日、11日、22日に各1回発生しました。このうち11日、22日の2回が爆発でした。爆発に伴う噴石の飛散、爆発音、体感空振は観測しませんでした。

今年に入り桜島の火山活動は比較的静穏に推移し、1月から10月までの噴火回数は26回、うち爆発は16回と少ない状態が続いています。

噴煙活動の状況

3回の噴火のうち噴煙を観測できたのは2回で、噴煙量はともに中量でした。噴煙高度の最高は、22日の爆発により灰白色の噴煙が火口縁上1,200mまで上がりました。

地震・微動活動の状況

火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態が続きました。そのなかでA型地震¹⁾は7月以降のやや多い状態を保持しました。

震動観測点B点(南岳火口の北西約2.3km)での火山性地震の月回数は、26回(9月:40回)で9月よりやや減少しました。このうち、A型地震は12回(9月:14回)で、7月以降のやや多い状態を保持しています(図1、図2)。

また、火山性微動の月回数は3回(9月:4回)で、微動出現時間は0.1時間(9月:0.2時間)でした(図1)。

降灰の状況

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、10月の降灰量は0.5g/m²未満、降灰日数は1日(9月:1g/m²、3日)でした(図2)。

地殻変動活動の状況

GPSによる地殻変動観測では、黒神-野尻、黒神-藤野、藤野-野尻の各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした(図3)。

1) A型地震: 火山体およびその周辺で発生する地震のうち、P波、S波の相が明瞭で比較的周期が短い地震。火山以外で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられる。発生原因の例としては、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊が知られている(1990年の雲仙岳、2000年の有珠山、三宅島など)。

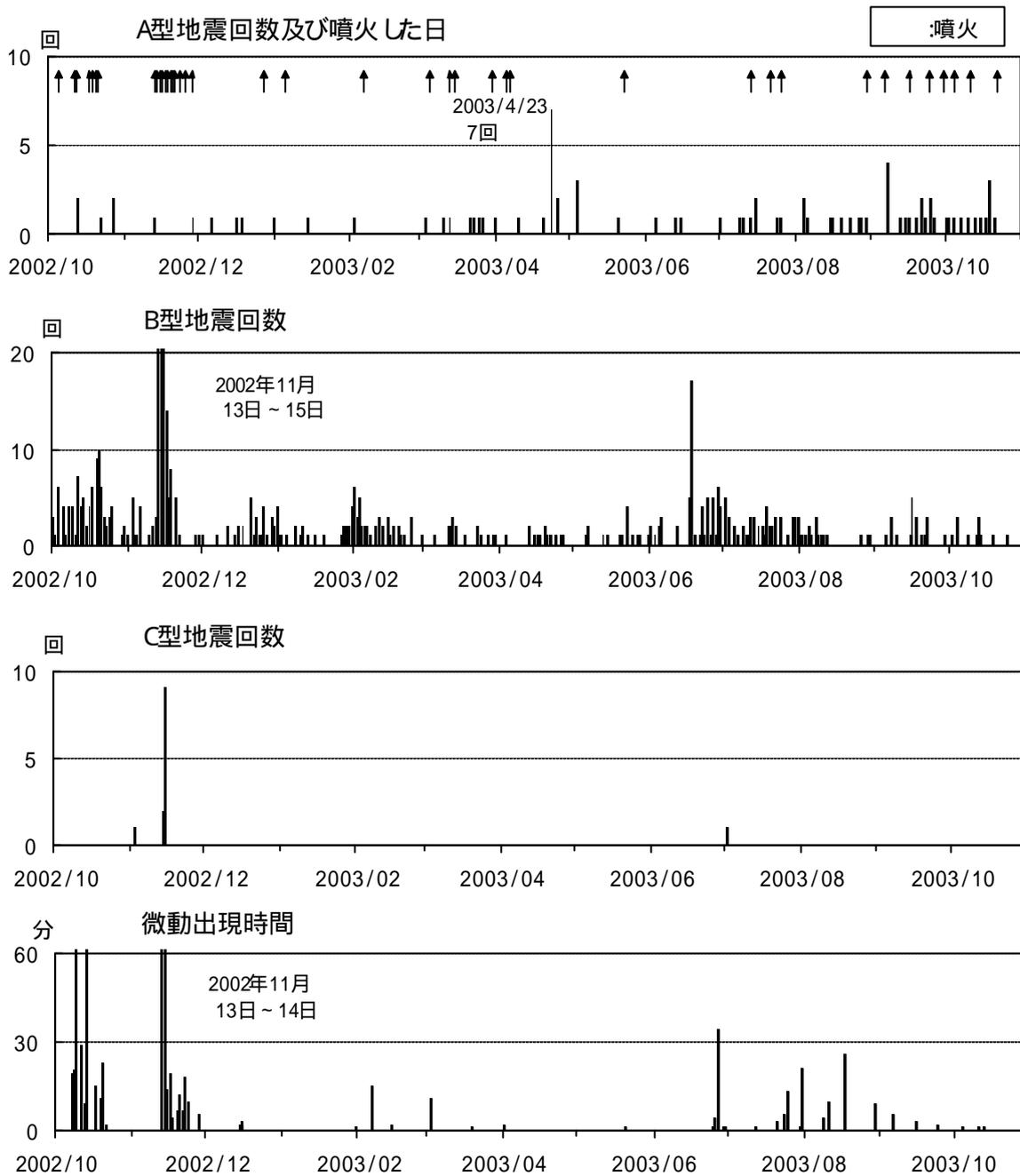


図1 火山活動経過図(2002年10月～2003年10月)

- ・ 総地震回数は少ないなかで、今年4月と7～10月はA型地震がやや多い。今後、噴火活動が活発化する可能性もある。

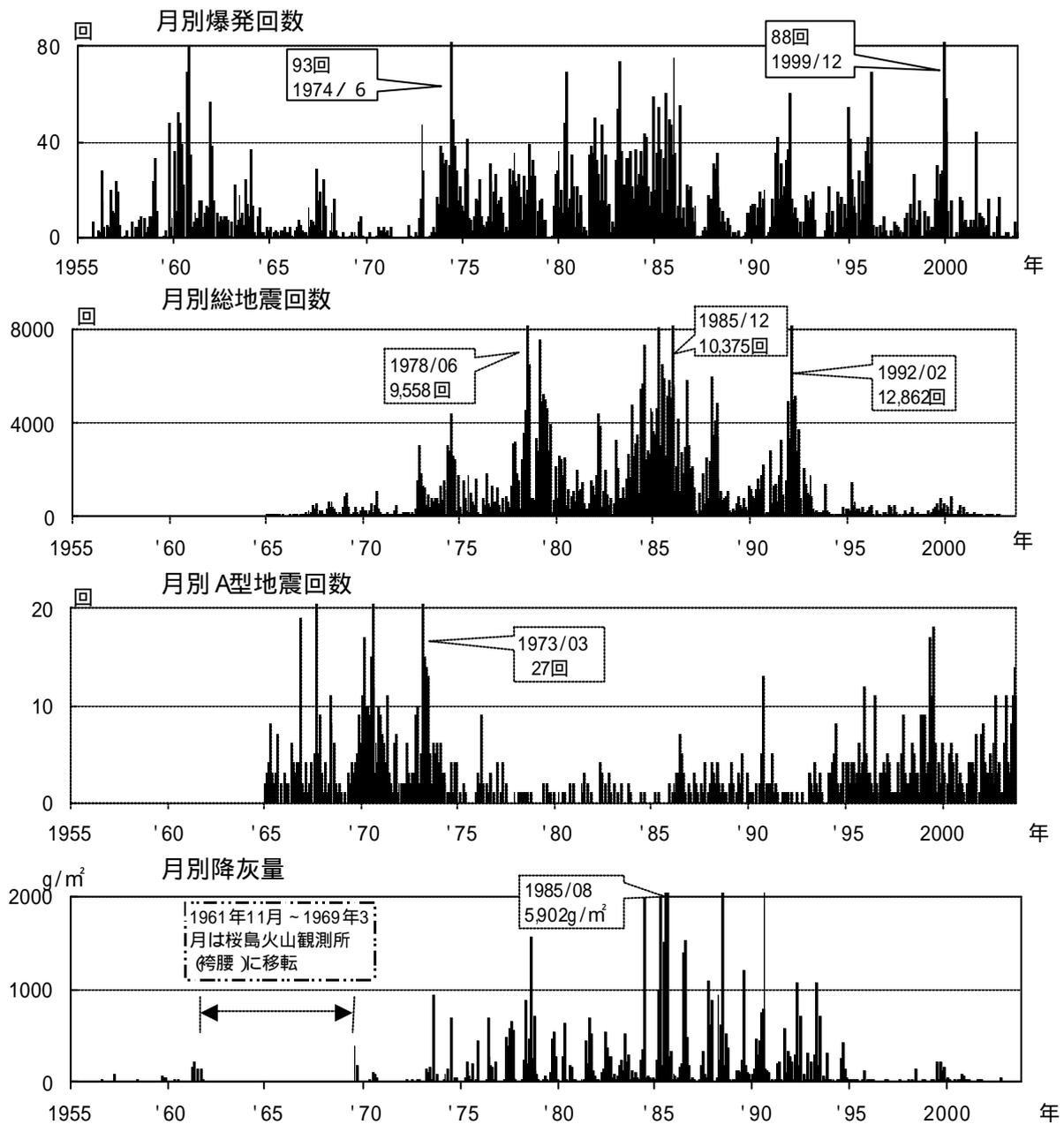


図2 火山活動経過図(1955年1月～2003年10月)

- ・ 震動観測点A点における総地震回数およびA型地震回数は、1965年からのデータをグラフに示した。
- ・ 気象台での降灰量の観測は1994年2月24日までは鹿児島市荒田1丁目、同年2月25日以降は同市東郡元町において行なわれた。なお、1961年11月から1969年3月までは桜島に観測所を移転したため降灰量の統計は中断した。

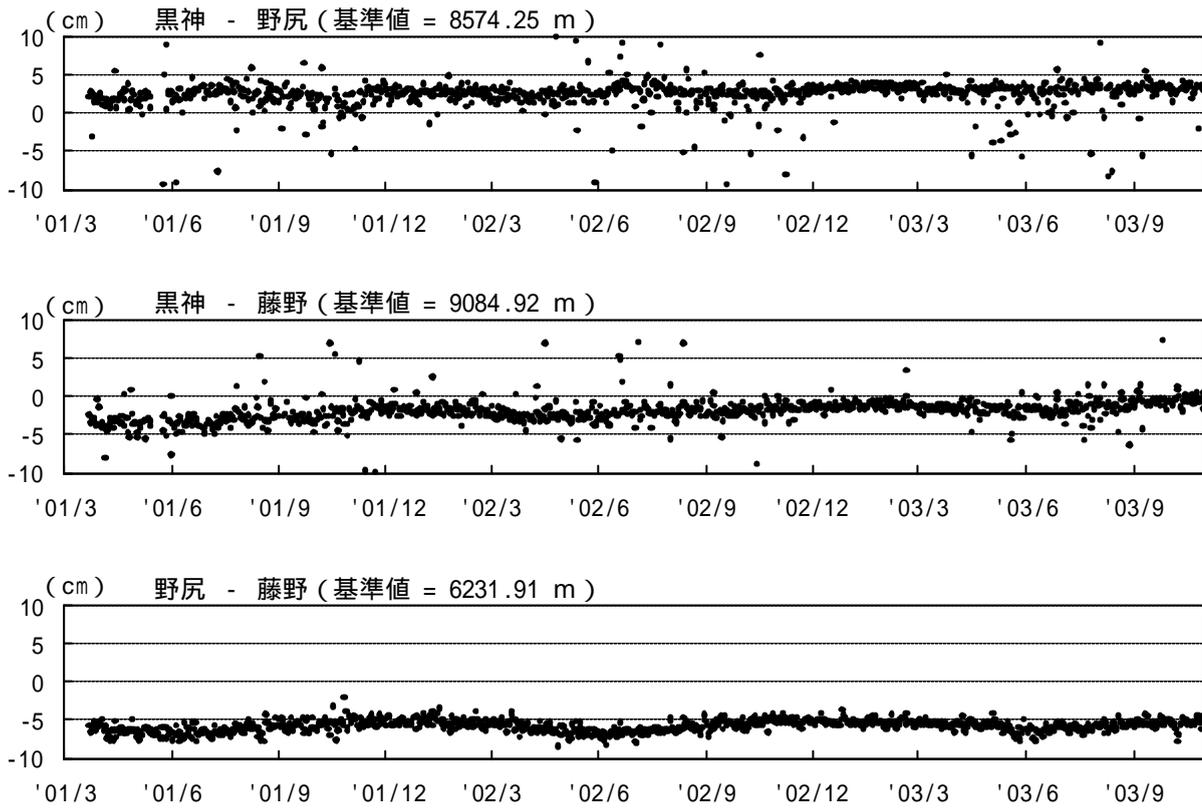


図3 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2003年10月31日)

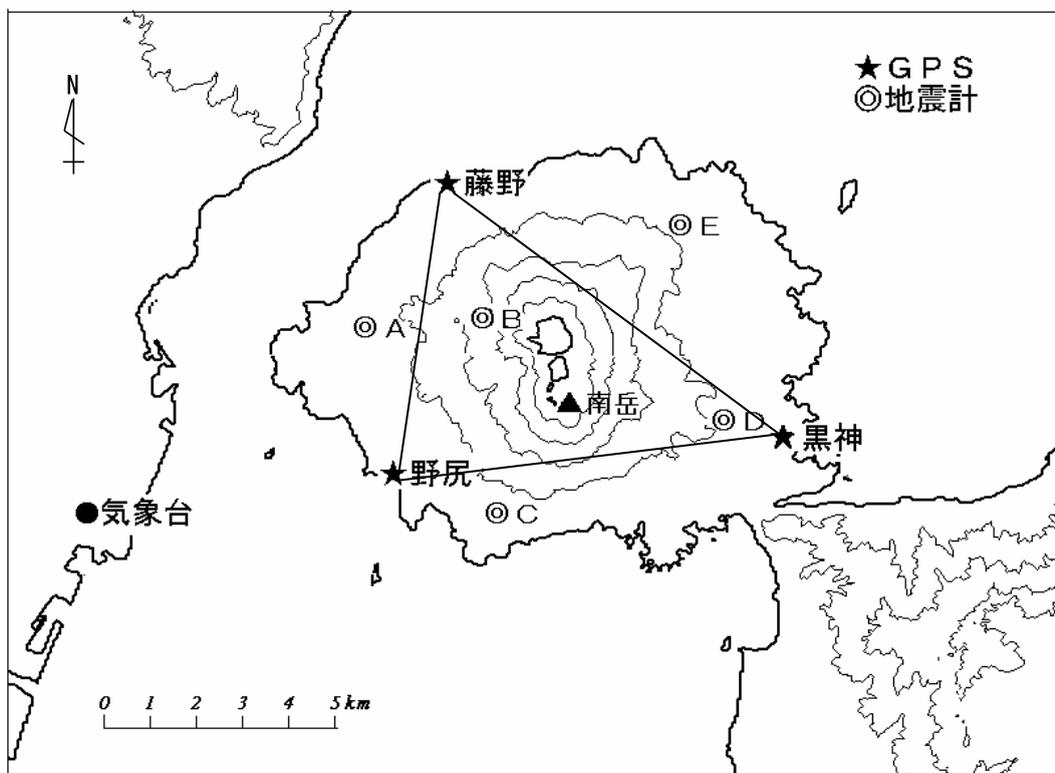


図4 観測点位置図